

お知らせ

受付を開始します

入学資金の融資あっせん

教育総務課・☎22216

対象 来春、学校教育法に基づく大学、短期大学、高等学校、高等専門学校、学校法人に指定される専修学校、これらと同等と認められる学校に入学しようとする方の保護者

資格要件

▽市内に1年以上居住していること

▽市税などに滞納がないこと

▽融資を受けた資金の返済能力を有していること

▽年間の総収入が1千万円以下であること

▽取扱金融機関が指定する信用保証協会へ加入できる要件を備えていること(保証料はかかりません)

融資額 150万円以内

※入学時に一括して納入する入学金、授業料、施設整備費などが対象です。

利率 年利1・6%(固定)

返済 融資の翌月から元利均等

月賦償還により4年以内に返済※6カ月または1年の元金返済の据え置きができます(利息分のみは返済)。返済据置期間を設ける場合は、据え置き後4年以内に返済。

※取扱金融機関は足利銀行足利支店、足利小山信用金庫(本店営業部および市内各支店)です。

受付期間

10月1日(月)～31年3月22日(金)

申込 まずは事前に電話で同課※合格が決定したらすぐにお申し込みください。

※入学金などをすでに納入済みの場合は、納入した日から3週間以内にお申し込みください。
※受付後、融資の可否が決定されるまで約1週間かかります。
※金融機関から融資が始まるのは10月15日(月)以降です。

ご覧ください
教育に関する事務の
点検・評価報告書

教育総務課・☎22216

教育委員会では、法律に基づき、毎年その権限に属する事務の管理・執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する

子どもの権利条約フォーラム
2018 in とちぎ

知ろう! 聴こう! 伝えよう!
みんなが未来の主人公

11/3(土)・4(日) 市民プラザ文化ホール ほか

同実行委員会・☎070・5035・2137・FAX(42)8616

11/3 全体会 午後1時30分～5時30分

講演会 こどもの里 理事長・荘保共子さん
『子どもが生きる力』を守る～子どもの貧困と子どもの権利
・記念上映会、足利っ子わいわいフェスタ(25ページ参照)ほか ※午後6時から交流会を開催。

11/4 分科会 午前10時～午後4時

・『子どもの権利条約入門講座』
・『虐待を受けた子どもの心』ほか

参加費 11/3のみ1,300円 11/4のみ1,000円

両日参加2,000円 ※18歳以下無料。

11/3交流会 大人2,000円 高校生以下500円

11/4お弁当代800円

申込 10月15日(月)までに参加申込
フォームかファクスで同実行委員会
※託児(500円・要予約)あり。



▶ 申込フォーム

財産区議会議員選挙

選挙管理委員会

☎22236

任期満了に伴う松田、葉鹿、小俣財産区議会議員の選挙を行います。

▼立候補予定者説明会

日時 10月23日(火)／午前10時～正午

会場 葉鹿公民館

※会場の都合上、出席者は立候補予定者1人につき2人以内とさせていただきます。

▼告示・立候補受付

日時 11月5日(月)／午前8時30分～午後5時

会場 葉鹿公民館

▼投票

日時 11月10日(土)／午前7時～午後8時

※立候補者が議員定数(各12人)を超えないときは投票を行います。

投票箱

10月の市税納期

収税課・☎202124

▶市・県民税(3期)

▶国民健康保険税(4期)

納期限 **10月31日(水)**

納期内納付にご協力を!

納付書にバーコードが印刷されているものは、コンビニエンスストアでも納付できます。

申し出が必要です
家屋の取り壊しなど
税務課・☎202129
家屋を取り壊したり、用途を

税

栃木県、群馬県以外で
技能検定に合格した方へ

商工振興課・☎202157
次に該当する方を褒賞していただきますので、10月12日(金)までに同課へご連絡ください。

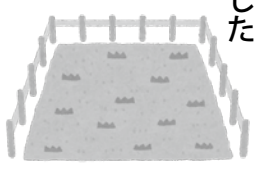
対象 29年度後期または30年度前期試験の特級、一級、単一等級を栃木県または群馬県以外で受験し合格した方で、市内に在住か市内の事業所に勤務する方

変更したりした場合は、土地の固定資産税額などが変更になることがあります。次の場合は同課(本庁舎2階)に申し出てください。
▽家屋を取り壊した
▽店舗から住宅、工場から物置など、家屋の用途を変更した



注意してください
農地の埋め立て
税務課・☎202123

固定資産税は登記簿上の地目ではなく、1月1日の土地の現状と利用目的に基づき課税しています。次の場合は**宅地並みの課税**になりますので注意してください。
▽農地転用の届け出をしたり、許可を受けたりした
▽農地転用をせずに埋め立てたなど



至誠 通天

市長コラム No.058



和泉 聡

アレクサンダー大王

塩野七生著『ギリシア人の物語』(新潮社、全3巻)を読みました。12年前の『ローマ人の物語』と同様、塩野さん独特の語り口調で、読者をその時代に一気にタイムトリップさせる力強さがありました。

なかでも印象に残ったのは、第3巻に登場するアレクサンダー大王です。歴史の教科書で名前ぐらいしか知りませんが、21歳の若さで故国マケドニアを出て、32歳で病没するまでの11年間、一度も故郷に帰ることなく、インドの手前までの広大な土地を征服していった若き王。容姿はもちろん、リーダーとしてのあり方は「かっこいいな」と思わず独りごとを言ってしまうほどでした。

少ない軍勢であれだけの土地の征服に成功した理由として、塩野さんは二つのことを強調しました。ひとつは、いかに仕事を

を他者に任せられるかです。「大事業は、一人ではできない。他の人々の協力なしには、絶対にできない。それには他者を信頼して、明確な目的を与えたうえで任務を一任する必要がある。信頼に値するかどうかを精密に審査しては何一つ始まらないので、ある意味では直感によって大胆に一任するしかないのだ(326頁)」と塩野さんは言い切ります。

二つ目は、戦って倒した相手を排除することなく、仲間に引き入れて同化していくことでした。これはローマ人も、のちに全く同じ手法をとって大国を築き上げます。「敗者を支配するには、敗者にも存在理由を与えてやるのが、最も合理的でそれゆえに持続性も望める統治法なのであった(347頁)」。

歴史はいつもたくさんのことを私たちに教えてくれます。まちづくりという大事業の先頭に立つリーダーとして、日々誰よりも勉強し、歴史から学ぶことも忘れない。そんな決意を新たにしたのでした。